

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	まちの玄関である一宮駅ビルが、多機能で多くの人でにぎわっている	
施策名	一宮駅を中心とした魅力ある中心市街地をつくる	No.44

年度	平成28年度
責任部長	まちづくり部長
主担当課長	都市計画課長
関係課	管財課、経済振興課、道路課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値						目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後	
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後	
駅周辺がにぎわっていると思う人の割合(%)	→	13.7	13.0	12.9	11.6	10.4	14.3	20.6	
		14.3	25.8	29.7	28.1	30.3		29.1	
駅周辺が多機能で、魅力があると思う人の割合(%)	→	8.9	8.0	8.5	7.8	8.2	9.9	16.6	
		9.9	21.7	24.1	24.3	24.4		25.0	
歩行者通行量(人)	①本町通り歩行者	1,676	1,686	1,416	2,020	1,702	1,659	2,081	
		1,659	1,246	1,668	1,312	1,211		2,499	
	②本町通り自転車	2,218	2,371	2,035	2,468	2,053	1,650	2,411	
		1,650	1,724	1,875	1,297	1,224		2,588	
	③銀座通り歩行者	1,574	2,253	1,810	2,430	2,276	1,952	1,932	
		1,952	2,221	2,161	2,099	2,351		2,354	
	④銀座通り自転車	863	1,003	819	1,008	871	543	1,027	
		543	599	690	585	560		1,383	

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

駅周辺については、尾張一宮駅前ビルが出来たことにより通勤通学の「通過点」だった駅は図書館や店舗が集まる「滞在型」へ変化し、同ビル内にある半屋外広場のシビックテラスは土日の予約が殆ど埋まり、様々なイベントが開催されにぎわいを創出している。路線価についても今年度5.1%上昇し、名古屋へのアクセスの良さから需要が高まったとみられると新聞で報じられた。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B 停滞	「駅周辺がにぎわっていると思う人の割合」は、H29目標値を超えており、「駅周辺が多機能で、魅力があると思う人の割合」は、昨年引き続き伸びを示している。また、「歩行者通行量」については、本町通りはH27実績値より減少した結果となったものの、銀座通りは歩行者と自転車を合わせれば増加しており、改善傾向にあるといえる。iビルが整備されたことにより駅前についてはにぎわっていると評価されているが、中心市街地全体には波及効果が表れていないと考えられる。
------	----------------	---

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
駅前ビルに多くの人が集うようになる	駅前ビルの周辺地域が活性化される		
JR尾張一宮駅前ビル活用事業 再開発事業	市営駐車場管理運営事業 <small>商工団体等事業費(共同事業・空き店舗活用事業)補助事業</small>		
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果は、にぎわいの観点から核施設の駅前ビルと周辺地域の活性化に分けており、問題ない。中心市街地全体の活性化については、魅力ある商店街の創出が求められ、行政の事業活動だけでは難しい。しかしながら、駅前ビルの集客力を向上させる取り組みや無電柱化され景観に配慮された商店街、葵公園への案内など、駅前ビルに来る多くの来訪者に回遊してもらう環境を整え、にぎわいに寄与できるように努めたい。		
次年度の改善計画	各事務事業は、中心市街地ににぎわいを創出するには必要な事業であり、次年度においても継続して実施するとともに、オリナス一宮を活用した催物などを検討する。		

市民からみた計画の進捗状況 □A □B □C

- ・A判定(改善傾向) 40%
- ・B判定(停滞) 56%
- ・C判定(悪化傾向) 4%

